



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1928, 10(1): 76-81

ISSUE DATE:

1928-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183458>

RIGHT:

日本地理教授の参考書であると共に、生徒に持たすに適した小冊子である。色刷の圖版には平地と山地とを明瞭に分け川の流程や流域の面積を示し、附するに縣の人口の多寡を比率面積中に入れて面積の比較と共に人口の粗密を判からせてゐる。(尤も其の一點人口一萬の赤ボツの並べ方は面白くない。イギリスの初等地理書に説いてある様な點の分布方法を取つてないなどはまづい)産業圖としては米、繭糸、織物の三つの分布圖がある。附録には主に人文地理に關する各種の統計をランドナバーで擧げてある。この統計や地圖をうまく驅使すればよい授業が出来るが、一體に雜然として居るので總ての記載事項を使ふのは容易なことではあるまい。(S)

○礦物と地質

河村信一著 四六版二二〇頁 附録結晶表及結晶圖十葉 昭和三年四月 東京本郷區弓町平野書房發行

著者が第八高等學校での講義用プリントを改訂した礦物學及地質學の概要である。由來高等學校に於ける礦物學地質學の講義は一學年約六十時間に限られてゐる爲めかして、斯學の學問的興味をそゝる様には課せられて居ない。本書も礦物學地質學の一般は説いてはあるが、近代の發達した礦物學には觸れずに舊來のクロックマンやナウマンチルケル以上には出てゐないのが目立つ。殊に地質學の方は約二十五時間の割に組立てられてゐるのであまりに記事が形骸に過ぎる恨みがある。猶且つ地質學の部分には挿畫が甚しく乏しい。これは講義用梗概である爲であらう。兎も角かうした礦物地質學が

○世界地理讀本

遠藤金英著 古今書院發行 昭和三年五月 定價二圓二十錢

學習院教授遠藤金英氏が外遊の際の旅行記といつたものが本書である。日本からアメリカ、英吉利、獨逸、佛蘭西、伊太利、瑞西と巡遊して、地中海をへて歸國といふ世界東廻りの一週記である。著者は戰後海外に出られたので獨逸やオーストリヤ、チエツコスロバキヤなどについてその疲弊の狀況を眼に見るやうに記してゐられる、流暢な明快な達筆で、すら／＼と地理、風俗、産業たまには歴史など迄叙述してあるが特に名所の風景を記す所がいき／＼としてゐて面白い。米國ではコロラド、ナイアガラ。英國ではキヤツスルカンツリーカトリン湖。獨逸では五月のお花見、などがその例である。豊富な智識追憶の中から、これまで簡単に要領よく仕上げられた才筆に敬服する。小學生の課外讀本として、若くは青年團の讀本として天下に普及せんことを期待する。(F)

雜誌 報

ヤナバラ 柵原鑛山事業概要

鑛山の位置 柵原鑛山は吉井川を挟み勝田郡南和氣村久米郡吉岡村の兩村に跨り山陽線南氣驛

を北に距る約五里自動車の便あり一時間にして吉ヶ原に至り
其れより徒歩約一時間にして柵原に達す

中國線津山驛よりは約二里自動車にて鑛山まで達す

鑛山の沿革 柵原鑛山は明治十四五年の頃勝田郡南和氣村福
田利平氏の發見にかゝり爾來幾多の消長を経て大正五年九月
合名會社藤田組に移り翌年藤田鑛業株式會社の創立に當り之
を繼承し採掘及び選鑛設備の改善と架空索道の架設により漸
次其面目を改め大正十五年九月一大新鑛床の發見せらるゝあ
り其埋藏鑛石の無盡藏なると品質の優良なるとは共に當山の
誇とする所なり。

鑛 區

探掘鑛區

一、〇一三、七三七坪
七、二二八、五五五坪

鑛 量

安全鑛量

三十五億貫

推定鑛量

五十億貫

鑛石の品位

鑛石は硫化鐵鑛にして其品位優良なること我國第一にして硫
質の含有量百分中五十二以上、鐵の含有量四十六以上に達す。

鑛石の用途

硫酸製造用原料にして主として硫酸アンモニヤ、過燐酸石灰
等人造肥料其他の化學工業原料として需用範圍頗る廣く又硫
化鐵鑛の燒滓は製鐵原料として使用されつゝあり。

最近一ヶ年生産鑛量、價格

生 産 高 三千萬貫

價 格 百六十萬圓

從 業 員 六百七十四人 昭和三年四月末現在

坑外從業員 三百八人 坑内從業員 三百六十六人

(浦 上 報)

○朝鮮の對内地貿易

昭和二年中朝鮮の對内地貿易額
は移出三億三千七十九萬一千餘圓、移入二億六千九百四十七
萬三千餘圓合計六億二千六百四十四萬圓にして移出超過六千百
三十一萬七千餘圓之を前年に比して移出七百三十八萬四千圓
を減じ、移入二千二百二十三萬七千餘圓を増加す。

移出重要品は米であつて實量六百四十五萬五千七百二十四
石價格約二億圓にして前年よりも六十七萬石の増加である、
米につぐ大豆は凡百四十五萬石、二千二百萬圓に上る、これ
につぐものは鮮魚六十萬斤、六百萬圓、乾魚一千五百萬斤、
價格五百萬圓、鹽魚八十萬圓内外海苔、砂糖、牛皮、綠綿、
繭、生糸、柞蠶生絲、黑鉛、石炭、金、鐵、鋤、牛、バルブ
木材、海藻、肥料、等である。移入の方では米、麥、砂糖、
酒、麥酒、葉烟草、マツチ、綿、綿織糸、金巾類、晒金巾、
天竺布、白木綿、綿木綿等、毛織物、絹織物、漁網、ゴム靴
洋紙、和紙、石炭、セメント、陶磁器、鐵製品機械、其他で
あつて鮮人間の需要が年と共に増加するの勢である。

併合直前明治四十二年まで内地の對外貿易で、對支貿易が

一億二千萬圓の時に、對鮮貿易は僅に四千萬圓、即三分一に過ぎなかつたのに、今日では對支貿易以上の移出入額になり十年以前の移出入二億五千四百萬圓に對比して、約二倍半となつた。皇化の潤ほす所隔世の感があるではないか。

○本邦と南阿聯邦との交通

日本より南阿聯邦に輸入せらるゝ綿織物(綾本綿、生シーチング、綿帆布、晒金巾、綿縮緬、綿フランネル)硝子器、等は主として大阪市を中心とする生産市場より仕入れ、神戸より輸出せらるゝ、綿縮は産地が上州足利佐野地方なれば横濱より輸出せらるゝ、運輸機關は日本郵船、大阪商船の南米航路、東阿航路による。日郵南米線は普通南米東廻といひ、毎月一回の不定期航海にして、横濱四日市、神戸、門司、香港、西貢、新嘉坡、モンバサ、デラゴベールに寄港し、ダーバン、アルゴアベール、ケープタウンをへて南米に至る、其就航船は三十年の歐洲航路船にして老朽なれば日阿間四十餘日を要す。

大阪商船の南米定期航路(世界一週航路)は一ヶ年十回の定期船にして、神戸より横濱へゆき、逆航して四日市、神戸、長崎、香港、新嘉坡、コロombo、ダーバン、アルゴアベール、ケープタウンをへて南米に至る、其就航船は一萬噸級の船及新造のゲーセル式モーター船三隻にして優秀なれば日阿間三十餘日を要するのみ。

大阪東阿航路も大正十五年の開始にて、大阪、神戸、長崎、新嘉坡、モンバサ、ザンシバル、タラサラム、バイラ、デ

ラゴアベールを経てダーバンに至る、毎月一回の定期航路にて聯邦への輸出荷物多し。かくて日阿間の輸送は三線あり、毎月三回の船便によりて輸入しうるわけ也。

○支那の茶

支那は領土廣大にして茶樹栽培の適地たる溫帶熱帶の多雨地に位すると共に地質又茶樹に適する赤色沙岩層の岳陵、二疊三疊紀及レリッチク層即ち夾炭層の丘陵地多くして、茶の生産範圍頗る廣汎にして北緯二十三度乃至三十二度内の中支那及南支那到る所茶畑あれども北支那は生産地少し、江蘇省、安徽省の長江以南、湖北省の南半五分の三湖南省、江西省、福建省、浙江省の全部四川貴州雲南の北半就中南嶺の支脈たる小岳陵及其傾斜地は最茶樹の栽培に適し湖南、湖北、江西、安徽、福建、浙江の六省は最も盛ん也其生産數量は統計の明なるものなきを以て之を知る能はずと雖も民國七年の收穫調査表左の如し。

省別	千支畝	綠茶	紅茶	粉茶	單位千斤計
奉天	四	—	—	—	—
山東	〇・一	—	—	—	—
河南	一	—	—	—	—
山西	不詳	—	—	—	—
江蘇	一〇八	二二	—	—	—
安徽	四三三	一〇・〇	—	—	—
江西	一・二六	四・六七	七・八五	二・五五	一・六六

福建	一二三	四、三三	三、六七五	二、一七〇
浙江	六四二	六、五四	七、〇七〇	一、八七
湖北	興	七、八五	六、九三	九、三
陝西	三	二	三	一
				六

一八二〇年頃には茶の輸出額は輸出貿易總額の四分三、其後一八七七年には五分三を占めたりしも現今は三分以内に減退せり。一八六六年迄は支那茶貿易旺盛なりしも、其後舊態依然として幼稚なる栽培法を踏襲して科學的智識なく、市場は漸次印度茶、日本茶、瓜哇茶等に奪はれつゝあり、歐戰前には露國義勇艦隊によりてオデッサに陸揚されしもの相當の額に上りしも現在頗る少くシベリア露西亞より陸路該地方に輸送せらるゝものあり、上海より輸出せらるゝものは、歐洲航路にて海路ホートサイドより近東地方に再輸出せらるゝ、近時近東波斯方面より屑物茶の需要増加し、印度シヤム地方へも多量の注文ありといへども、支那茶の輸出は將來生産方法を改善せざる限り輸出の増加は困難なるものゝ如し。

一九二六年度の輸出は紅茶二九二、〇〇〇擔、綠茶三七三、〇〇〇擔、磚茶一四二、〇〇〇擔、毛茶四、〇〇〇擔、茶末二一、〇〇〇擔合計八十六萬擔に過ぎずといふ。

○フイジー島事情

フイジー領は南緯十五度乃至二十二度、西經百七十七度乃至東經百七十五度の間にある島嶼及岩礁全部を包含し、シドニーより千七百哩、新西蘭オークランドより千百里の距離にあり。島嶼の數二百乃至二百五十と

稱せらるゝも無住の岩礁多く、ロトウマ屬領十四方哩を合せ、七千八百三方哩。英本國リエールスと同面積なり。主なる島はワイティ・レウ四、〇五三方哩 ヴァヌア・レウ二、一三〇方哩 タヴィウニ、二一七方哩 カダヴー二四方哩等にして、コロ、ガウ、オヴァラウはいづれも四十平方哩内外あり。

一六四三年蘭人タスマン發見、一七六九年クックの寄港後一八五三年英人宣教師來住して成功し一八七一年酋長サコンバウを王としてフイジー政府を樹立したるが一八七四年サコンバウ王より主權を英國王に譲り渡し一八八八年最初の總督來る。土人ポリネシアンは元來二大部落あり一は色甚だ黒く他は然らず、フイジーは前者に屬するも混血兒のため、色黒からず。一八五九年の全人口二十萬、一八七一年十四萬、漸減の傾にありし上一八七五年疫病の爲め四分一を減ぜり、土人の數は一九二一年には約九萬、歐人凡四千八、混血人三千人印度人六萬、其他を合せて人口總數十六萬人と稱せらる。フイジー島の經濟的獨立は砂糖、コブラの栽培とその輸出にして、棉花、玉蜀黍及バナナの産も少からず、米作も相當の收穫あり、一九二六年度の貿易總額は三、二二一、三七二磅にして輸入百五十萬磅輸出百七十萬磅に達す主として英本國及濠洲新西蘭との取引なり。我國との關係はこの島より貝類を輸入するのみにて、その額一萬三千磅に上る、主として高瀬貝、眞珠貝なるが、我國より布帛類、硝子、金屬製品を輸出

す、布帛類三萬磅を第一位とす。

○グアテマラの産業

中米のグアテマラは面積四八二〇〇平方哩、人口約二百萬其六割は印人にして方言多し氣候は熱帶國にあれども、地形上三區に分たる海岸より二千呎迄を熱地城、二千呎より六千呎までを溫地城、六千呎より一萬二千呎までを寒地城とす。第一城は細工用材木、バナ、ゴム、バームを産し、第二城は砂糖、珈琲、玉蜀黍、米、果樹を栽培し、第三城は麥、馬鈴薯を産す。溫度は低地華氏八十度高地は五十度、冬期は攝氏十二度乃至六度となる。五月より十月まで雨季十一月より四月迄乾期とす。

大西洋岸にアエルトバリオス港人口三、〇〇〇人アメリカ、歐洲航路の定期船寄港す、グアテマラ市迄百九十五哩の間優秀なる鐵道あり。大西洋岸のサンホセ港は首府より鐵道の便あり、桑港バナマ間を航行する汽船は必ず寄港するの便を兼ね。チャムペリコ港も之につぎて良港也。

西領植民地時代より鐵産多く、銀、鉛、金、亞鉛、銅、硫黃、雲母、岩鹽を産し、石油も發見されたり。

農業はグアテマラの主産業にして穀物、野菜、果實、珈琲、甘蔗、コ、アにとむ。バナ、は最重要なる産物にして年額五百萬弗を産す内百萬弗を北米に輸出す、珈琲も其芳香性に於て特色あり歐洲大陸に愛用せらる。

木材は豊富にしてマホガニ、黒檀を重なる輸出品とす、牧畜業は太平洋岸に盛也、一九二六年の輸入二六、六〇一、五

八七弗、輸出二八、九七八、〇八七弗。

○ケニヤ、ウガンダ兩鐵道の直通

アフリカ、ケニヤ鐵道の本線ナクルより分岐し西北走して土地肥沃、氣候溫和を以て知られる歐人の移住地ウアシンギツシユ高原を貫通する支線を延長し、ウガンダ國境のトロロに至らしめ、次でウガンダ鐵道のジンジャとナマサカリ間のムアラムチに結ぶケニヤ、ウガンダ直道の鐵道工事は一九二四年政府の承認を得たが本年一月十日、完成、開通式を行ふたといふことである。この連絡が出来ると從來湖上汽船によりてキスムに送られるのを常としたウガンダ東部州(棉花最主要産地)の棉花の大部分は本線によりて、直接モムバサに出るから、キスムの荷支へが大に輕減されるであらう。又之によつてケニヤ、ウガンダ兩國の連絡も一層密接になり『東阿英領聯合』の將來に向つて意義深い鐵道が實現したのである。猶又本線によりジンジャよりモムバサ間は五十八時間、ジンジャ、ナイロビ間は三十三時間に短縮した。

○白領コンゴのラヂウム

世界第一のラヂウム産出地は、礦山をチンコロヴエー又はカリソロといひカタンガ州首府エリサベスビルから約百十哩。かの同地方一大銅坑所有者たるユニオンマイニエール社の所有である。一九一三年一月二十二日、ルイスウシ銅坑の測量中偶然に發見され、一九一五年四月からチンコロヴエーにて第二回の發見があつた。其鐵石をとればバンダ停車場から箱詰にして本國に送くる。其

のウラニウム鑛は岩層の裂目に介在し水晶體をなし、多くは鑛狀を呈す、地床は赤色の片岩、滑石よりなる頁岩、硅酸含有岩及白雲石含有石灰岩より成り銅坑と同一地層に位し、脈の厚さ二十乃至三十呎である、この國の放射能鑛石は米國コロラド州のカルノタイト、葡國產のオーツナイト、佛領マダガスカルのベタフアイト等と全然ちがつて眞黒の扁平狀をなしてゐる。秘密の漏洩を恐れ標本さへくれない。米國のは一噸につき二厘五七のラザウムがなければならぬ。米國のは一噸につき六十六厘七も抽出せらる。一九二一年本國についたウラニウム鑛は十二噸であつたが一九二四年には五六瓦のラザウムを得た。かくてオーラン工場は世界の需要を満たすに十分となつた。

先是一九二二年まではラザウムの世界産額の五分四は米國産であつたが、今やカタंगाがその九割五分を占めることになつた。

チンコロヴエーの礦區は面積半徑約五呎の圓狀で、このからのみで、世界一手に引き上げられる、一九二四年に探掘中止をしたまゝ今日に及ぶといふ。

質疑應答

【問】 北米大湖水面下降問題とはいかなることなりや

島根 松 江 生

【答】 大湖の交通及電力資源としての重要なるは云ふ迄もなきことにして、米加兩國の中央部の開發に伴ひ、セントローレンス河の内陸水路としての位置は、世界の何れの大陸にも

勝り、既にスエズ及巴拿馬運河を凌駕して商業上の偉觀を示めしてゐる。この一大水系に關係して、急湍淺瀬のセントメリー河はシユエバリオル、ヒューロン兩湖を連結する運河となり、ヒューロンとエリー湖の間にはデトロイト及セントグレア運河が出来、エリー湖とオンタリオの間にはナイヤガラの險をきつて、カナダに深さ十四呎のウェランド運河がある目下改修工事に一億弗を投じてゐる外にセントローレンス上流で三十呎を掘り下げ下流ケベックから大西洋までの間に深三十五呎の水道に掘りさげるといふ風にして航運を便にすると同時に、猶この位の水道では不足するので、セントローレンスから紐育に通ずる大運河を計畫すれば、北方にモントリオールからヒューロンに通ずるザオルザン運河の計畫がある。

いろ／＼かうした運河の計畫が出来ると最大重要な問題は水である。しかもその水が段々減少するとなれば航運は勿論電力の上にも差支へるであらう、しかもし水が十分であつて、今のウェランド運河を三十呎にも深めたならば大洋航運の船がモントリオールの終點から更にエリー湖に達する。そこで、トロント、バツファロー、クリーヴランド、デトロイト、ウインザー、シカゴ、ドゥリウス、フォートウィリアム、これらの大都會はすべて海港にあるといふ素破らしい將來がある。

然し果して實行が出来るかといふに、湖水の水が實際は十分でない。ナイヤガラの水でさへ之を電力に化すると同時に自然の美觀を保存すべしといふ意見で兩國の委員會がある。米國は一秒に二萬立方呎加奈陀は三萬立方呎以上の水